

## 地域包括ケアネットワーク No.92

### 倉敷地区地域ケア会議活動報告

倉敷医師会介護福祉担当理事 木曾 昭光

倉敷地区では行政担当部署に医師会・歯科医師会・薬剤師会等の専門部門代表者に加え市内に12カ所の地域高齢者支援センターを設けて、日々地域に密着した活動を続けている。春と秋の年2回定期的に地域ケア会議を開催して、毎年テーマを決めている。コロナウイルス禍を考慮して、「寄り添い・支え合おう・認知症」のテーマを2年続けて採用した。

地域ケア全体会議はコロナ禍で令和3年度はリモートで開催されたが、令和4年6月16日に2年ぶりに対面方式で開催された。

まず2カ所の小学区での地域ケア会議進捗状況の報告があった。最初に倉敷東学区からは以前、実施した生活実態調査の項目を見直した結果、ゴミ捨てに困っているとの意見が上がり、地域でのマンパワーが不足している実態が明らかになった。サロン活動では認知症カフェは、会場を変更して開催を模索する事になった。更に地域での認知症サポーター養成講座の開催を再開する方向で検討中と報告があった。

次に庄学区からの報告があった。前回の地域ケア会議後の重点項目として「防災に関する事」「人との交流」「絆づくり」の3点を重点的に取り組む方針で活動している。防災に関する事では三世交代交流を推し進め、地域内にある障害者施設の住宅を借りて実施する方向で動く事。毎年発行している広報誌が今年ちょうど10周年の記念誌を作る年になるので愛育委員を中心に情報収集・投稿・編集等を進めている。コロナ禍で地域の交流の機会が減り、サロン活動に参加する町民の数も一向に増えない状況にあるが、イベント開催の広報活動をしっかり取り組めば、ある程度の参加者を見込めることが分かった。今後の地域ケア会議の活動に関してアンケートを実施する他の地域課題の拾い上げにも努めていく事が報告された。

全体会議での小地区ケア会議交流会の振り返りで述べられた意見では、地区の取り組みの様子を聞く事が出来て励みになった。他地域の状況を共有できた。直接他地域の担当者の声が聞けた。ウイズコロナの取り組みが参考になった。コロナ禍が落ち着いたらパンフレットを配布し、認知症をテーマにセミナーを開催したい。個別の認知症ケース検討会を開催して早期発見・相談等が出来る様に地域ケア会議でチラシを作って配布したい。以前、実施した「安心おかえりシール」を若い世代にも広く知らしめる方法・PRを考えたい。2つの地区では「防災」について、災害弱者（避難における要配慮者）を含めた避難について重点的に対応する。川崎医療福祉大学の学生の方とのコラボ活動も年1回は継続して開催する。

全体会議での話題では、以前は年2回の講演会を定期的で開催していた。コロナが落ち着いたら再開したい。運営や場所・講師招聘・司会・誘導等課題は多いが、ボランティアにも協力を仰いでぜひ実現したい。

今後は各地域ケア会議の代表者だけではなく現場のメンバーともしっかり意思疎通を図る必要がある。さらに他の地域ケア会議ともコミュニケーションを図る事も重要である。